

熊本城復旧事業報告会

2025 年

5月17日



Open 12:30
Start 13:00

——最新の復旧状況を報告、今後の見どころを紹介！

崩落した奉行丸西側石垣

申込不要
先着
250名

会 場 市民会館シアーズホーム夢ホール
大会議室（熊本市中央区桜町 1-3）

主 催 熊本市 熊本城調査研究センター
TEL:096-355-2327



詳細はこちら

12:30

開 場・受 付

13:00～13:10

開会挨拶・趣旨説明

13:10～13:30

「熊本城復旧基本計画（令和5年3月改定）について」

13:30～14:10

「建造物の災害復旧事業 R6年度の報告、R7年度のみどころ」

14:10～14:20

〈 休 憩 〉

14:20～15:00

「石垣の災害復旧事業 R6年度の報告、R7年度のみどころ」

15:00～15:10

〈 休 憩 〉

15:10～15:50

「災害復旧事業における文化財調査成果 R6年度の報告、R7年度のみどころ」

15:50～16:00

閉会挨拶

熊本城復旧基本計画(令和5年3月改定)について

令和7年5月作成
熊本城総合事務所

熊本城の沿革・概要

■熊本城は慶長12年(1607)に加藤清正により築城され、寛永9年(1632)の加藤家改易以降は明治維新まで細川家によって維持管理されました。明治10年(1877)の西南戦争の際は主戦場の一つとなり、大小天守や本丸御殿などの建物が焼失しましたが、昭和8年(1933)の史跡・国宝指定を経て、現在は国の特別史跡・重要文化財建造物に指定され、文化財・公園として多くの市民・県民に親しまれています。

■昭和35年(1960)の大小天守の再建以降、建造物や石垣の保存修理・復元整備が行われ、その後平成9年(1997)に策定した「熊本城復元整備計画」に基づき、西出丸・飯田丸一帯の整備、本丸御殿大広間や馬具櫓の復元整備が行われました。現在は、13棟の国指定重要文化財建造物をはじめ、復元整備等による20棟の再建・復元建造物を有しているほか、石垣は973面で約79,000㎡に及びます。

平成28年(2016年)熊本地震における被害状況

種類	被害	内容
重要文化財建造物(国指定)	13棟	倒壊2棟、一部倒壊3棟。他は屋根・壁破損など
再建・復元建造物	20棟	倒壊5棟。他は下部石垣崩壊、屋根・壁破損など
石垣	崩落・膨らみ・緩み517面 (うち崩落50箇所、229面)	約23,600㎡(全体の約30%) うち崩落約8,200㎡(全体の10%)
地盤	陥没・地割れ70箇所	約12,345㎡
利便施設・管理施設	26棟	屋根・壁破損など



天守閣



飯田丸五階櫓



石門



宇土櫓



不開門



北十八間櫓

熊本城復旧基本計画について

本市では、平成28年熊本地震により甚大な被害を受けた熊本城の復旧に向けて、平成30年(2018年)3月に「熊本城復旧基本計画」を策定しました。以降、本計画に基づき将来の礎づくりとしての熊本城復旧に一体的かつ継続的に取り組んでおり、計画5年目の令和4年度(2022年度)に、これまでの達成状況や課題などを検証し、実績に基づく計画期間の見直しを含めた改定を行い、現在に至ります。

復旧基本計画 7つの基本方針

- 被災した石垣・建造物等の保全
- 復興のシンボル天守閣の早期復旧
- 石垣・建造物等の文化財的価値保全と計画的復旧
- 復旧過程の段階的公開と活用
- 最新技術も活用した安全対策の検討
- 100年先を見据えた復元への礎づくり
- 基本計画の策定・推進

復旧基本計画ホームページへ→

計画期間：2018年度から2052年度までの35年間(当初の計画期間20年からの延長)

- ◎ 計画15年目(2032年度)～宇土櫓、本丸御殿の復旧完了
- ◎ 計画25年目(2042年度)～全ての重要文化財建造物及び主要区域の復旧完了



計画期間

■計画期間は2018年度から2052年度までの35年間です。計画策定から最初の5年間を短期、計画期間の終期までの35年間を中期と設定し、その後、100年先の将来までを長期として位置づけています。宇土櫓と本丸御殿大広間の復旧が完了する15年目と、全ての重要文化財建造物や主要区域の復旧が完了する25年目が大きな節目となります。26年目以降の10年間は、特別見学通路の撤去や主要区域以外の工事を行うとともに、復旧完了後に向けた新たな整備計画の検討を行うこととしています。

計画15年目(2032年度)
宇土櫓、本丸御殿の復旧完了

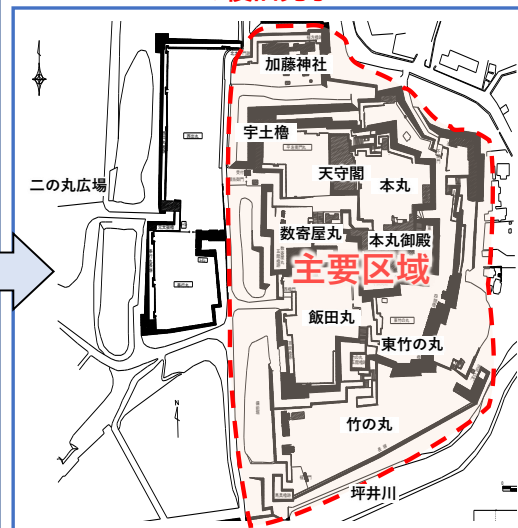


宇土櫓



本丸御殿

計画25年目(2042年度)
全ての重要文化財建造物及び主要区域の復旧完了



計画26年目(2043年度)～35年目(2052年度)
見学通路撤去・主要区域以外の工事と新たな整備計画検討の並走

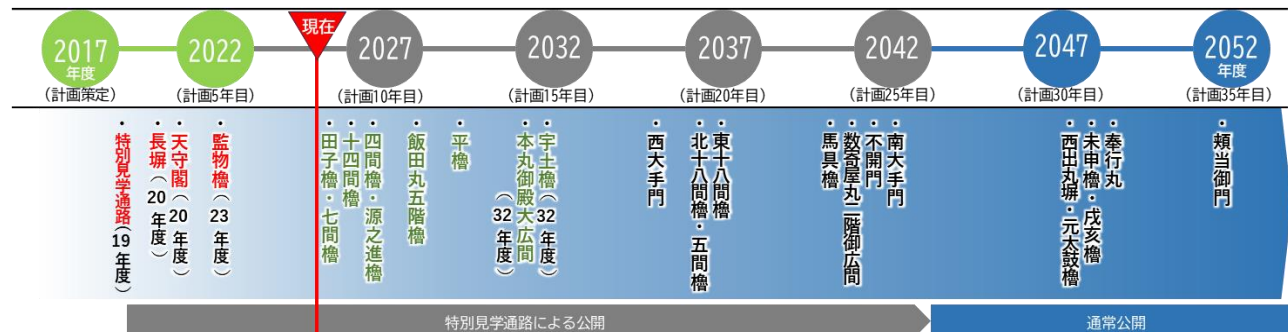
熊本城主要区域の復旧完了

特別見学通路の撤去
主要区域以外の工事の実施
新たな整備計画の開始

新たな整備計画の開始

復旧行程

■標準工期や事業量、石垣・建造物等復旧の着手優先度、及び復旧の手順を踏まえ、主要建造物(重要文化財・復元)の復旧工程を下表のとおり設定しています。



復旧に向けた取り組み状況

平成28年度（2016年度）事業費：約11億2千万円

道路や民有地への影響や被害拡大防止のための
緊急対策工事

- ・民地や道路に崩落した石材や櫓部材の回収、安全対策（百間石垣、北十八間櫓、東十八間櫓、等）
- ・建物倒壊防止（飯田丸五階櫓、田子櫓・七間櫓）
- ・工事車両道路の確保（南大手門の倒壊防止、工用スロープ設置、等）

平成29年度（2017年度）事業費：約27億7千万円

復旧工事に本格着手、熊本城復旧基本計画策定

- ・天守閣復旧工事着工、飯田丸五階櫓解体着工等

平成30年度（2018年度）事業費：約38億6千万円

熊本城復旧基本計画の推進

- ・櫓解体保存工事（監物櫓、西大手門、元太鼓櫓）等

令和元年度（2019年度）事業費：約47億9千万円

特別公開の開始

- ・特別見学通路設置工事
- ・長堀復旧工事着工
- ・特別公開第1弾の開始（防災センター・券売所・桜の馬場バス駐車場整備）

令和2年度（2020年度）事業費：約40億2千万円

長堀、天守閣復旧完了

- ・特別見学通路完成
- ・都市公園機能復旧（園路舗装、等）
- ・特別公開第2弾開始

令和3年度（2021年度）事業費：約12億9千万円

天守閣内部公開

- ・都市公園機能復旧（行幸坂安全対策等）
- ・天守閣ライトアップ開始

令和4年度（2022年度）事業費：約18億円

復旧基本計画の検証、改定

- ・長堀ライトアップ開始
- ・宇土櫓解体保存工事
- ・飯田丸五階櫓台石垣復旧工事
- ・監物櫓復旧工事

令和5年度（2023年度）事業費：約23億1千万円

新たな計画に基づく復旧事業の推進

- ・監物櫓復旧（重要文化財2棟目）
- ・飯田丸五階櫓台石垣復旧
- ・宇土櫓解体保存工事（～2025年度）

令和6年度（2024年度）事業費：約20億1千万円※

令和7年度（2025年度）事業費：約29億9千万円※

復旧事業の推進と保存活用の強化

- ・宇土櫓解体保存工事（2022年度～2025年度）
- ・田子櫓ほか南東櫓群復旧工事（2024年度～2027年度）
- ・平櫓台石垣復旧工事（2024年度～2025年度）
- ・旧細川刑部邸復旧工事（2024年度～2027年度）
- ・飯田丸五階櫓復旧工事（2025年度～2028年度）

※予算額



百間石垣安全対策



飯田丸五階櫓倒壊防止状況



南大手門倒壊防止



工用スロープ設置



天守閣復旧工事状況



飯田丸五階櫓解体状況



特別公開第1弾



特別見学通路



長堀復旧完了



天守閣復旧完了



天守閣内部公開



飯田丸五階櫓台石垣工事



監物櫓復旧完了



宇土櫓五階櫓解体保存工事



平櫓台石垣復旧工事



田子櫓ほか南東櫓群復旧工事

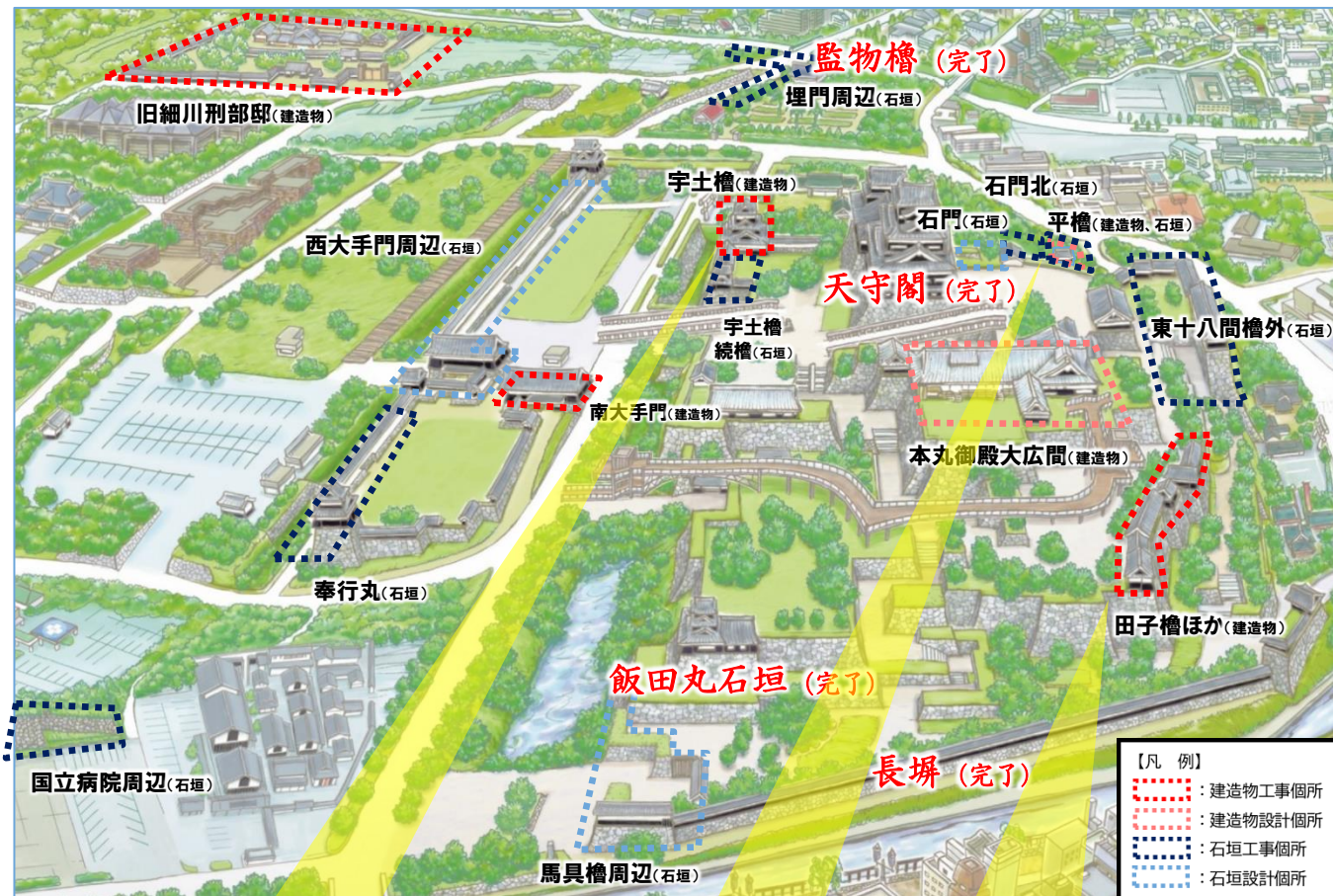
令和6年度(2024年度)の主要な復旧事業実績

建造物

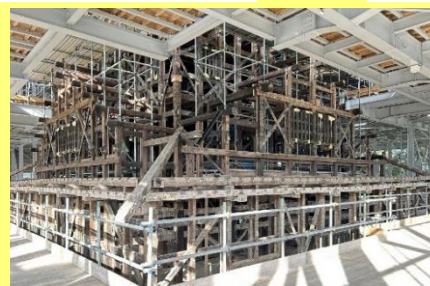
- ・宇土櫓解体保存工事
- ・田子櫓ほか南東櫓群復旧工事
- ・本丸御殿復旧設計
- ・旧細川刑部邸復旧工事
- ・南大手門解体保存工事

石垣

- ・石垣復旧工事（平櫓台石垣、石門北側石垣）
- ・石垣解体工事（東十八間櫓ほか北東櫓群石垣、宇土櫓続櫓台石垣）
- ・石垣復旧設計（石門周辺、馬具櫓周辺、西大手門周辺の各石垣）
- ・崩落石垣回収工事（奉行丸西側石垣、国立病院周辺石垣）



【凡 例】	
赤点線	建造物工事箇所
赤点線	建造物設計箇所
青点線	石垣工事箇所
青点線	石垣設計箇所



宇土櫓五階櫓解体保存工事

素屋根設置後、令和6年1月より五階櫓の解体保存に着手。
令和7年度(2025年度)解体保存工事完了予定。



平櫓台石垣復旧工事

本丸下段北側に位置する石垣で令和7年度(2025年度)石垣復旧予定。
その後、平櫓の復旧(設計、工事)に移行する予定。



田子櫓ほか復旧工事

城域の南東側に位置する重要文化財群で、2棟が全解体、3棟が半解体による修理。
令和10年度(2028年度)復旧予定。

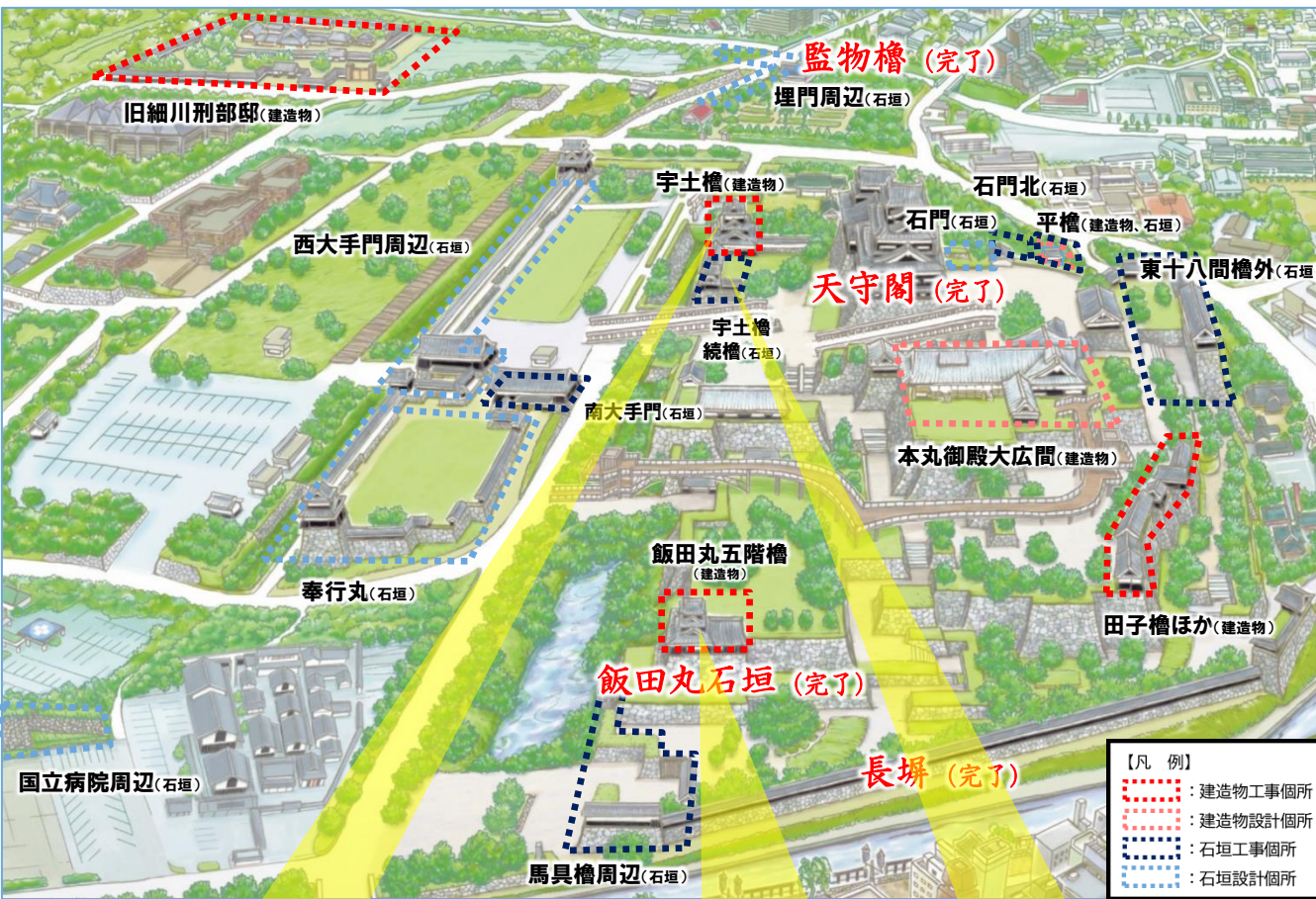
令和7年度(2025年度)の主要な復旧事業予定

建造物

- ・宇土櫓解体保存工事
- ・田子櫓ほか南東櫓群復旧工事
- ・本丸御殿復旧設計
- ・旧細川刑部邸復旧工事
- ・飯田丸五階櫓復旧工事
- ・平櫓復旧設計

石垣

- ・石垣復旧工事（平櫓石垣、石門北側石垣）
- ・石垣解体工事（宇土櫓続櫓石垣、東十八間櫓ほか北東櫓群石垣、馬具櫓石垣）
- ・石垣復旧設計（石門周辺、西大手門周辺、奉行丸周辺、国立病院周辺の各石垣）
- ・崩落石垣回収工事（南大手門周辺石垣）



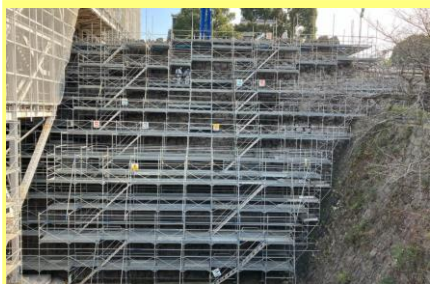
宇土櫓五階櫓解体保存工事

解体保存工事完了後、櫓の復旧設計に2年、復旧工事(櫓組立)に5年を要する。令和14年度(2032年度)復旧予定。



飯田丸五階櫓復旧工事

櫓解体後、令和6年1月に奇跡の1本石垣と呼ばれた石垣の積み直しが完了。令和7年度から五階櫓の復旧工事に着手し、令和10年度(2028年度)復旧予定。



宇土櫓続櫓石垣解体工事

続櫓下の石垣に地震による膨らみが拡大したため、大規模解体による復旧を行う。令和7年度中に解体を完了し、令和10年度(2028年度)石垣復旧予定

特別公開第1弾(大天守外観復旧)

大天守の外観復旧に併せて、工事のない日曜・祝日のみ、二の丸広場を起点に西出丸から工事用スロープを通り、平左衛門丸の一部や天守閣前広場の一部に至るルートを開通。天守閣をはじめ、重要文化財建造物の宇土櫓、崩落した石垣などを観覧いただきました。

■ 公開ルート

西出丸～工事用スロープ～天守閣前広場

■ 実施期間

2019(R1)年10月5日～2020(R2)年2月28日の日曜・祝日



特別公開第2弾(特別見学通路公開)

■ 令和2年(2020年)3月には、展示型復旧を主旨として、復旧完了までの期間に限って主要区域に特別に設置が認められた特別見学通路が完成し、6月から公開が始まりました。このことにより、復旧工事を計画的・効率的に実施しながら、復旧のスピードを緩めることなく、熊本城の被害状況や復旧過程を安全に観覧いただけるようになりました。

■ 公開ルート

特別見学通路～天守前広場 ※日曜・祝日のみ工事用スロープ～西出丸も開放

■ 実施期間

2020(R2)年6月1日～2021(R3)年4月25日

※2021年1月1日、1月15日～2月17日は新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休園



< 特別見学通路のルート >



見学通路下50m大アーチ



「二様の石垣」と天守閣

復旧過程の段階的公開と活用

特別公開第3弾(天守閣内部公開)

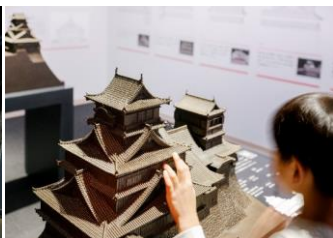
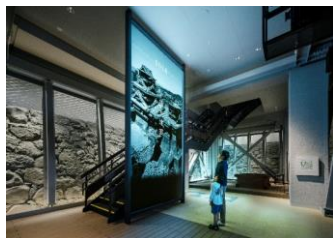
■天守閣の復旧完了と展示内容のリニューアルに伴い、天守閣の内部公開を開始。天守に焦点を置き、階層ごとに各時代の展示を行うとともに、多言語解説やAR機能を搭載したスマートフォンアプリを導入しました。また、天守閣内部には新たにエレベーターを設置するなど、様々なユニバーサルデザインを取り入れています。

■公開ルート:特別見学通路～天守閣(内部公開)～西出丸

※現在、北口は宇土櫓の工事に伴い、土日・祝日のみ開門

■実施期間:2021(R3)年6月28日～現在

※2021年8月2日～9月30日は新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休園

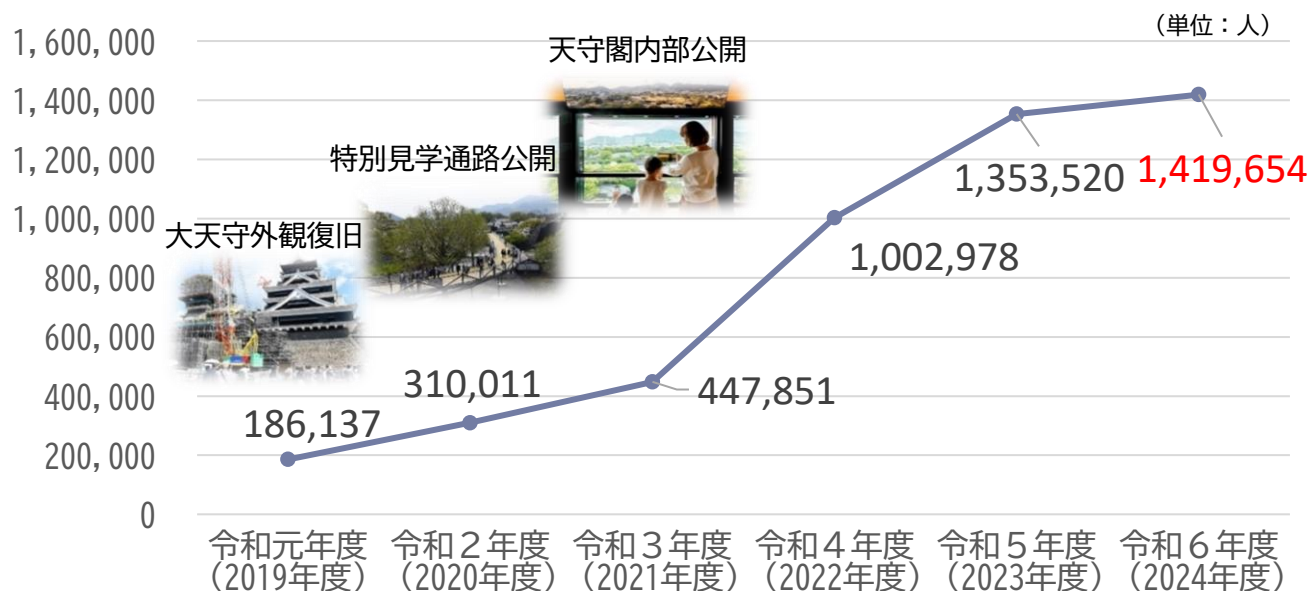


入園者数の推移(令和元年度～令和6年度)

■熊本地震後、令和元年10月から段階的に園内の公開を実施し、令和3年6月からは天守閣内部の公開を開始し現在に至ります。段階的公開により入園者は年々増加傾向にあり、令和4年度は熊本地震以来初めて100万人を超えることができました。

■さらには、令和5年5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行により、インバウンド需要のさらなる回復もあり、令和6年度入園者は141万人と順調に増えているところです。

■今後も復旧過程の中で熊本城の魅力を最大限活かした展示公開、情報発信に取り組んでいきます。



雲上の熊本城

実施期間:令和6年(2024年)10月11日(金)から11月4日(月)

■令和6年秋のくまもとお城まつり期間中、熊本城特別見学通路にて熊本城の古井戸の水を一部使用したミストにより、日本最大級の人工雲海を出現させる「雲上の熊本城」を開催しました。

■雲海の白が地際をよりシンプルにみせ、そこに浮かぶ曲線美を強調された二様の石垣周りで生み出される壮大なスペクタクル、夜間は通常の照明と青系の照明をベースに『水』をイメージした雄大な音と光とともに浮かび上がる空間演出を多くの方にお楽しみいただきました。



熊本城



熊本城復興城主
QRコード



建造物の災害復旧事業



1 建造物の復旧について

- (1) 熊本城の建造物
- (2) 建造物の復旧方針
- (3) 建造物復旧の進め方

2 令和6年度の報告

- (1) 国指定重要文化財宇土櫓(五階櫓)解体保存工事
- (2) 国指定重要文化財田子櫓ほか4棟復旧工事
- (3) 熊本県指定重要文化財旧細川刑部邸復旧工事
- (4) 南大手門解体保存工事
- (5) 本丸御殿復旧設計

3 令和7年度の予定

- (1) 飯田丸五階櫓復旧工事
- (2) 国指定重要文化財平櫓復旧設計

1-(1) 熊本城の建造物



文化財建造物

【国指定重要文化財】

宇土櫓 平櫓 不開門
五間櫓 北十八間櫓
東十八間櫓 源之進櫓
四間櫓 十四間櫓 七間櫓
田子櫓 長堀 監物櫓

【県指定重要文化財】

旧細川刑部邸

特別史跡熊本城跡としての
本質的価値を構成する諸要素

再建・復元建造物

【復元】

本丸御殿大広間
飯田丸五階櫓
戌亥櫓 西大手門
南大手門 元太鼓櫓
未申櫓 馬具櫓 など

【外観復元】

天守閣 長局櫓
平御櫓 など

特別史跡熊本城跡としての
価値を高める諸要素

便益施設等

【便益施設】

休憩所
トイレ
券売所
売店など

【管理施設】

管理詰所
ポンプ室
電気室など

現代の利用に
関する諸要素

1-(2) 建造物の復旧方針



平成28年熊本地震による被災建造物復旧の原則

- 建造物※1は、原則として「地震直前の状態」に復旧することを基本とする。
- 耐震・台風対策などの防災機能等についての検討を行う。
- 特に耐震対策について、総合的な調査・研究を早急に行う。

※1 重要文化財及び再建・復元建造物



重要文化財建造物の耐震対策

文化財的価値が損なわれることを防ぐとともに、来場者の安全確保を含め
必要に応じた耐震性能の向上措置を図る。

1-(2) 建造物の復旧方針



重要文化財建造物の耐震補強方法の原則

- ア 意匠を損なわないこと
- イ 部材を傷めないこと
- ウ 可逆的であること
- エ 区別可能であること
- オ 最小限の補強であること

文化財的価値を
維持するため

1-(2) 建造物の復旧方針

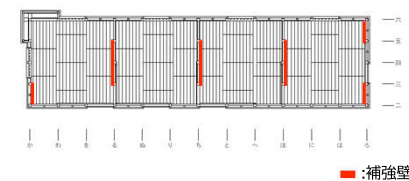


重要文化財建造物の耐震補強



監物櫓
令和5年(2023年)12月 復旧完了

室内壁面に沿って補強壁を設置



平面図

1-(2) 建造物の復旧方針



現代の部材で
あることが分
かるように

格子状の補強壁
を設置



古建築の趣を損
なわないように



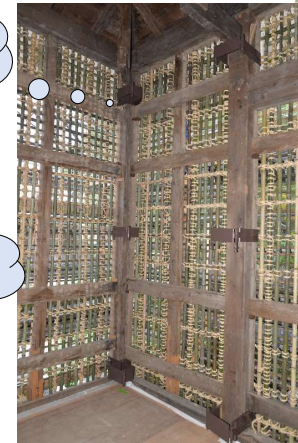
1-(2) 建造物の復旧方針



既存の部材
を傷つけない
ように



取外しできる
方法で固定



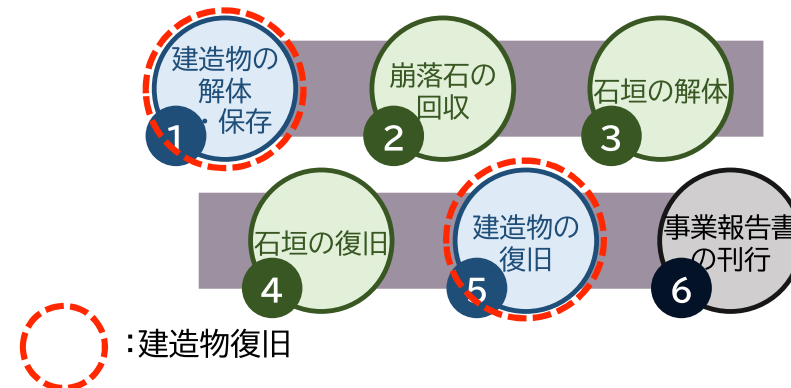
1-(2) 建造物の復旧方針



1-(3) 建造物復旧の進め方



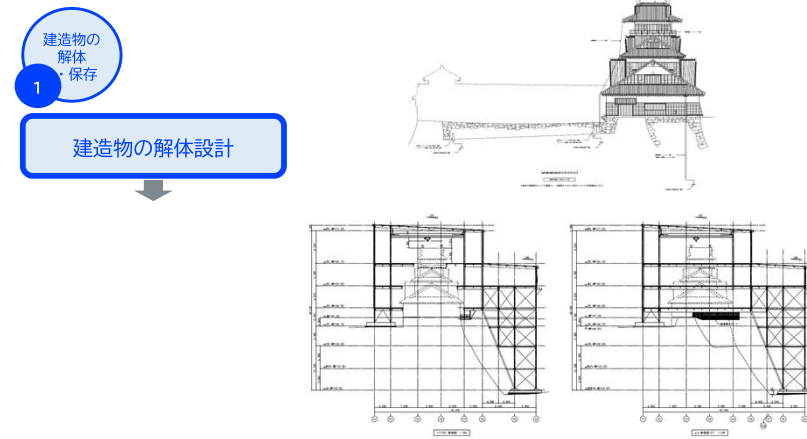
災害復旧の進め方



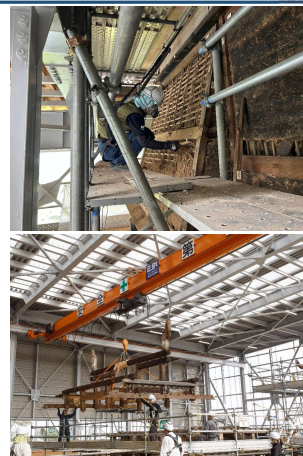
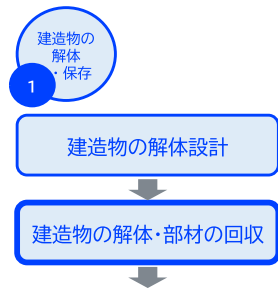
1-(3) 建造物復旧の進め方



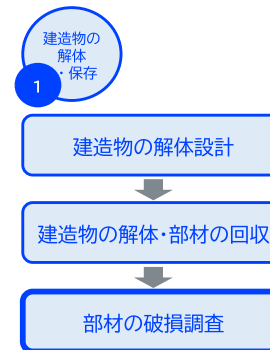
1-(3) 建造物復旧の進め方



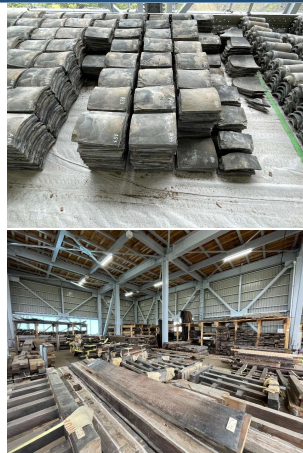
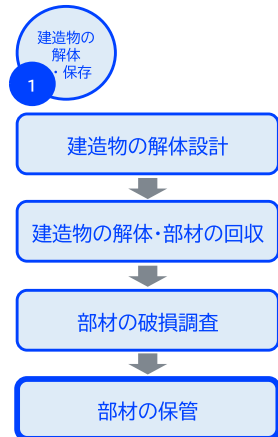
1-(3) 建造物復旧の進め方



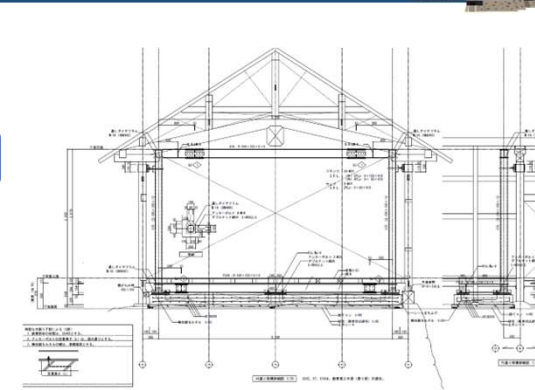
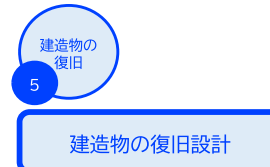
1-(3) 建造物復旧の進め方



1-(3) 建造物復旧の進め方



1-(3) 建造物復旧の進め方



1-(3) 建造物復旧の進め方

建造物の
復旧
5

建造物の復旧設計



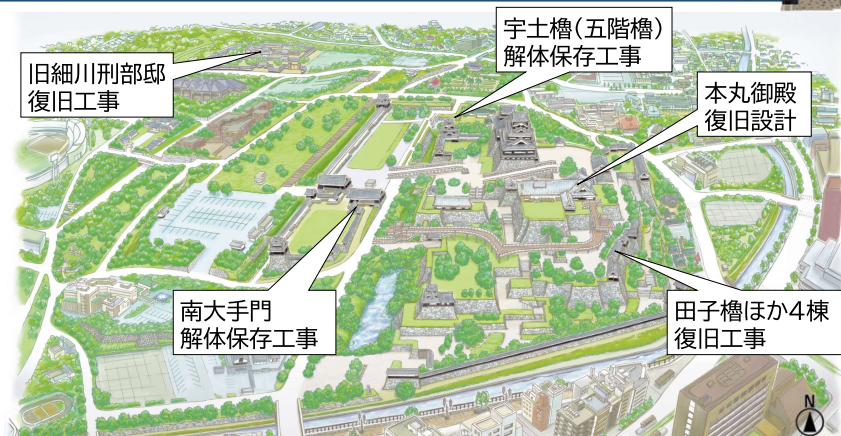
建造物の復旧工事



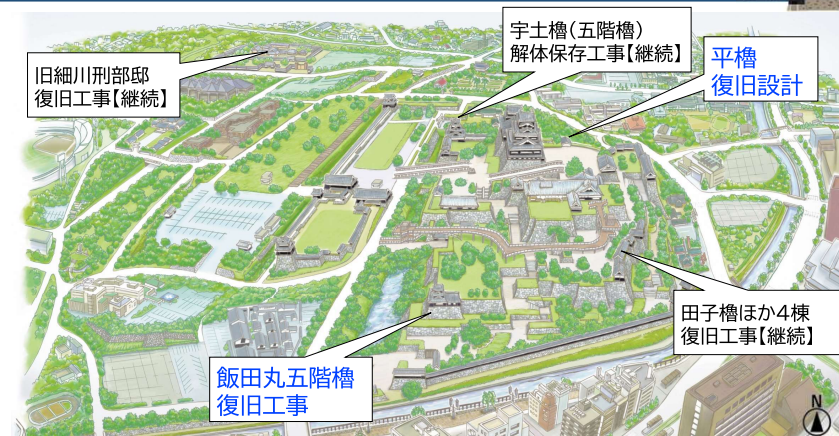
1-(3) 建造物復旧の進め方



2 令和6年度の報告



3 令和7年度の予定





石垣の災害復旧事業

熊本城総合事務所
復旧整備課 土木整備班

1



石垣の災害復旧事業

◆石垣復旧の概要

◆令和6年度の報告

◆令和7年度みどころ



2



熊本城の石垣とは

石垣は、熊本城跡特別史跡の**本質的価値**を構成する諸要素であり、適切な保存管理が必要なもの

有形・無形の両側面から評価される。



石垣の本質的価値

「歴史の証拠」としての価値
「安定した構造体」としての価値

石垣の本質的価値を評価する属性・指標

1. 形態・意匠
2. 技術
3. 地域性
4. 時代性
5. 精神性

転用：文化庁文化財部記念物課「石垣整備のてびき」より

3



石垣復旧の原則

平成28年熊本地震による被災石垣復旧の原則（石垣の復旧方針）

石垣は原則として「地震直前の状態」に復旧する

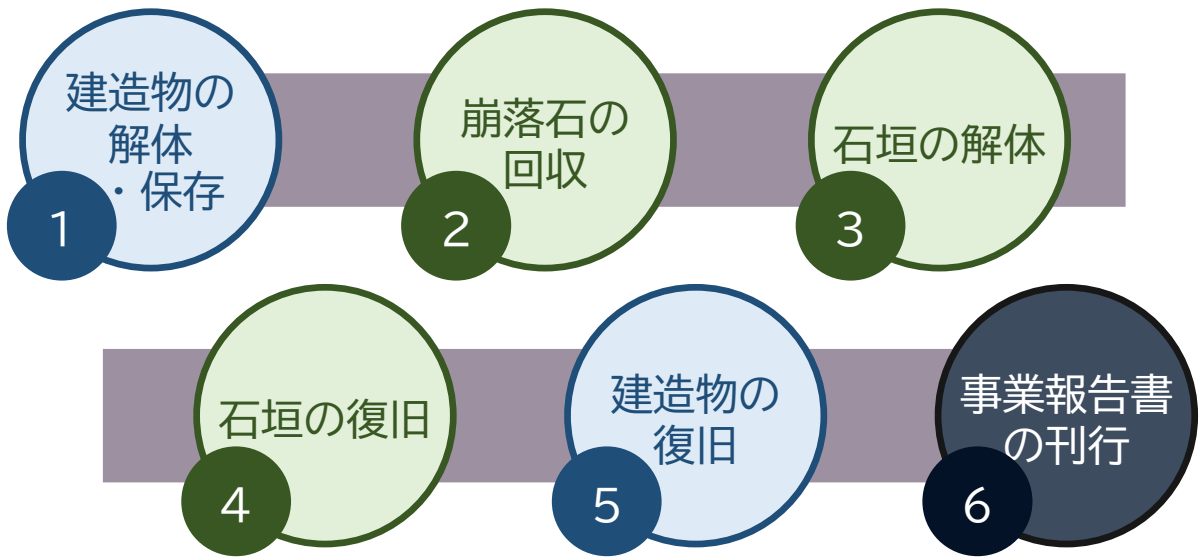
- 石垣の解体範囲は必要最小限とする。
- 石垣等の復旧は、伝統工法を基本とする。
- 安全確保と文化財価値の保全を両立する。
- 適切な文化財調査と成果の検討を行う。

ただし、以下の場合には「地震直前の状態」に復旧しないこともある。

- ① 地震直前の状態が、既に安全上、危険な状況にあるなど、構造上の問題を有していた場合（例：ズレ・孕み出し等）
- ② 伝統的工法だけでは石垣を安全に公開することができないと判断される場合は、必要最小限の現代工法による構造補強を検討する。
- ③ 地震直前の状態が、明らかに後世の補修等によって、工法・素材などが変更され、文化財価値を低下させていた場合（例：間知石使用・練石積工施工等）

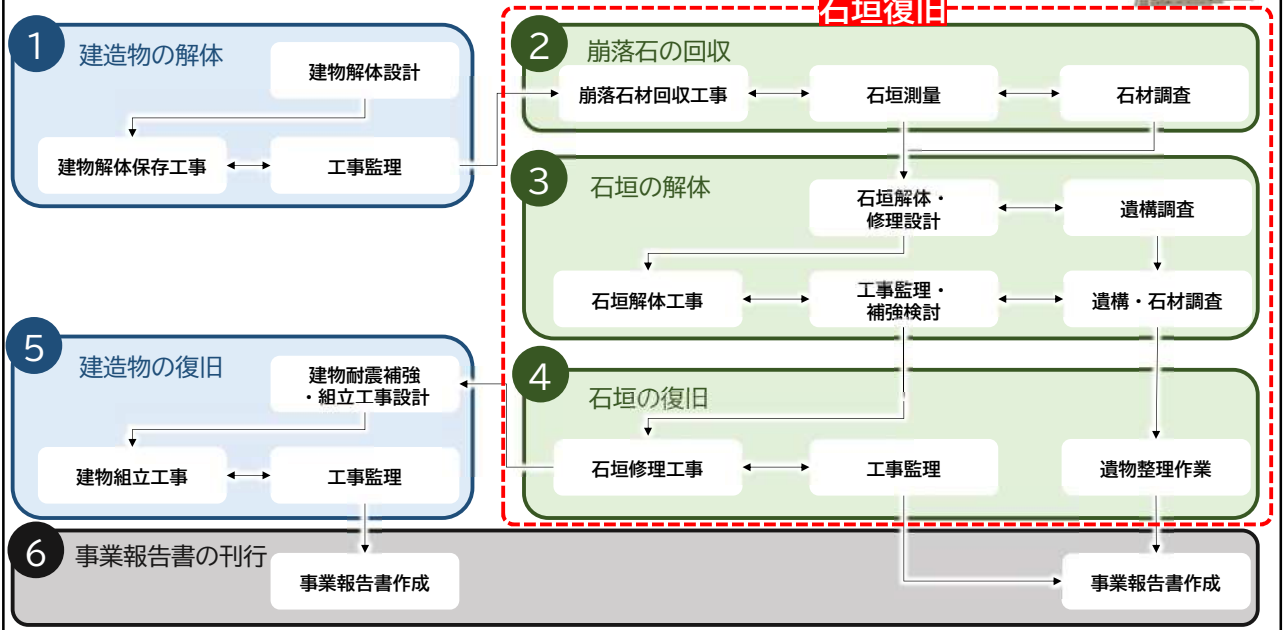
4

おおまかな復旧事業の流れ



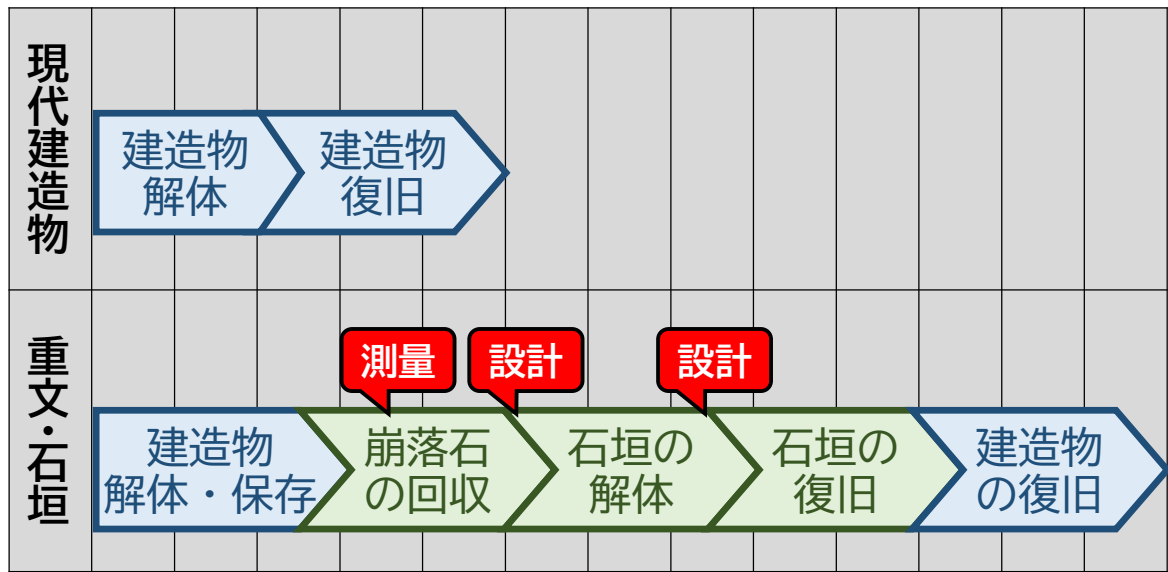
5

復旧事業の流れ(建造物を含む)



6

復旧期間の比較イメージ



7

石垣の構造補強

石垣復旧の原則

伝統的工法だけでは石垣を安全に公開することができないと判断される場合は、**必要最小限の現代工法による構造補強を検討**する

文化財としての石垣の価値に配慮し、**価値を極力損ねることのない方法**で行う。

8

石垣の構造補強



文化財としての石垣の価値に配慮し、**価値を極力損ねることのない方法**で行う。

配慮すべき原則

形態・意匠を損なわないこと

元の部材を傷めず、取り替える場合は材料、材質を変えないこと

補強方法が可逆的※であること ※元の状態に戻すことができるような性質や機能

補強部材が元の部材と区別可能であること

9

石垣の構造補強



石垣の構造特性

三層からなる**柔構造**

素材・振動特性の異なる三者が相互に干渉しあって地震動のエネルギーを吸収

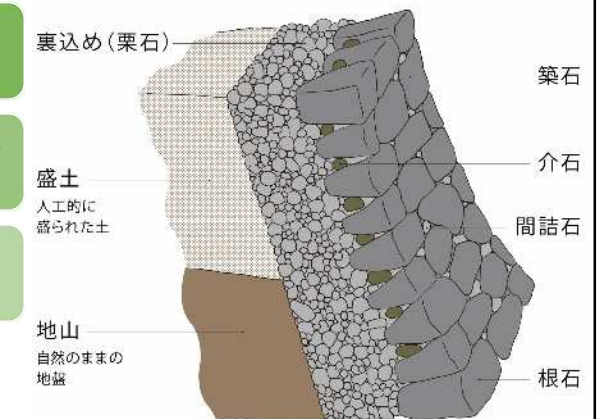
部材の接点が緩やかで（無数にあり）、全体が揺れて地震動のエネルギーを吸収

背面地盤の水分を自然に外へ逃がす

①免震（制震） ②排水

自然災害の多い日本で高度に発達した斜面安定工法

一般的な石垣の構造



10

石垣の構造補強



石垣の現代補強方法例

<積み直しを伴うもの>

- ・盛土改良（良質土、セメント・石灰改良）
- ・栗石改良（粒度調整、洗浄、手詰め）
- ・築石改良（押さえ石、介石補強、破損石材等の交換、間詰石補強）
- ・ジオテキスタイル工による補強（ジオグリッド、新型ジオグリッド等）

<積み直しを伴わないもの>

- ・間詰石補充工
- ・盛土、石垣、蛇籠等による押さえ工
- ・鉄骨等別構造による押さえ工
- ・鉄筋挿入工法
- ・筒状固結アンカー工法（鉄筋挿入+ウレタン注入により栗石部を筒状に改良する工法）

<地山補強>

- ・グラウンドアンカー工法
- ・地盤改良工法
- ・抑止杭工法
- ・矢板工法

<基礎補強>

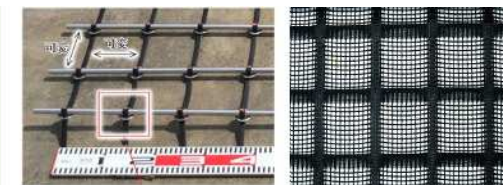
- ・胴木付加、木製杭設置
- ・コンクリート基礎設置
- ・抑止杭工法

11

石垣の構造補強(熊本城における事例)

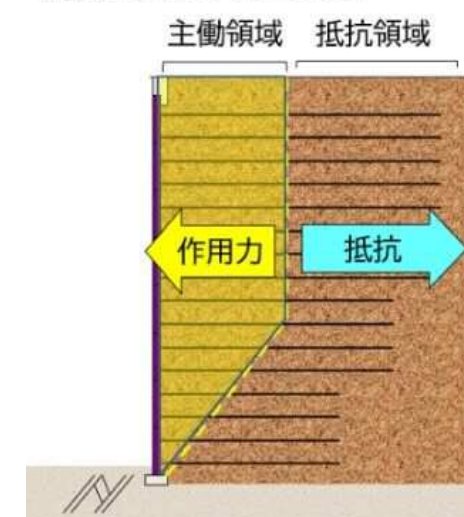


熊本城の石垣で使用しているジオテキスタイル材料



出典:土木学会 地震工学委員会 城壁の耐震診断・補強に関する研究小委員会 城壁の耐震診断・補強に関するシンポジウム「ジオテキスタイルによる城郭石垣への適用」より

補強土壁のメカニズム



出典:ヒロセ補強土(株)HP「補強土とは？」より

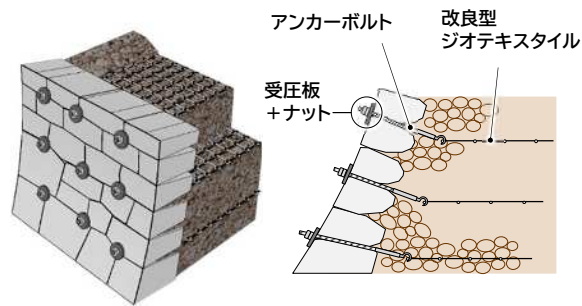
12

石垣の構造補強(熊本城における事例)



飯田丸五階櫓石垣

- 内部補強（ジオテキスタイル）
- 受圧板



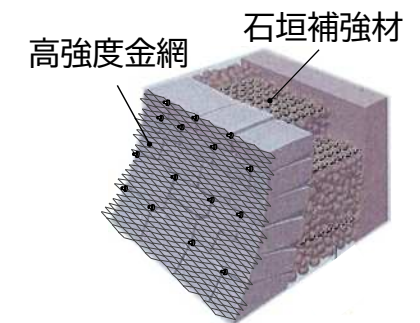
13

石垣の構造補強(熊本城における事例)



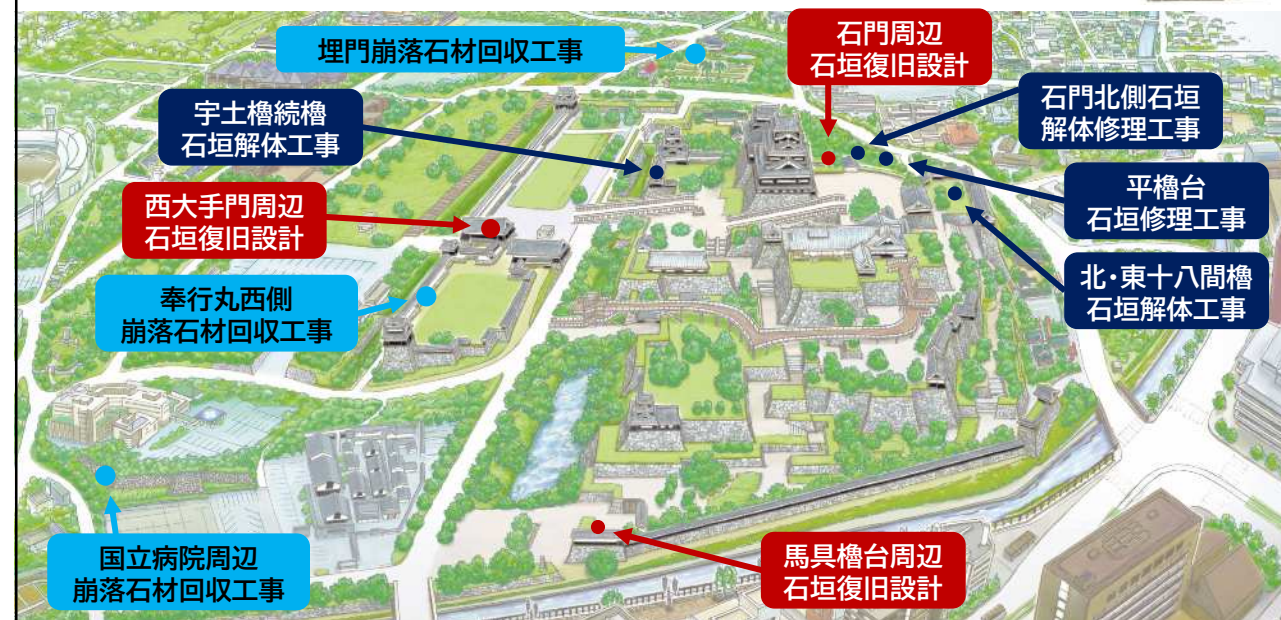
小天守入口石垣

- 内部補強（ジオテキスタイル）
- 高強度金網



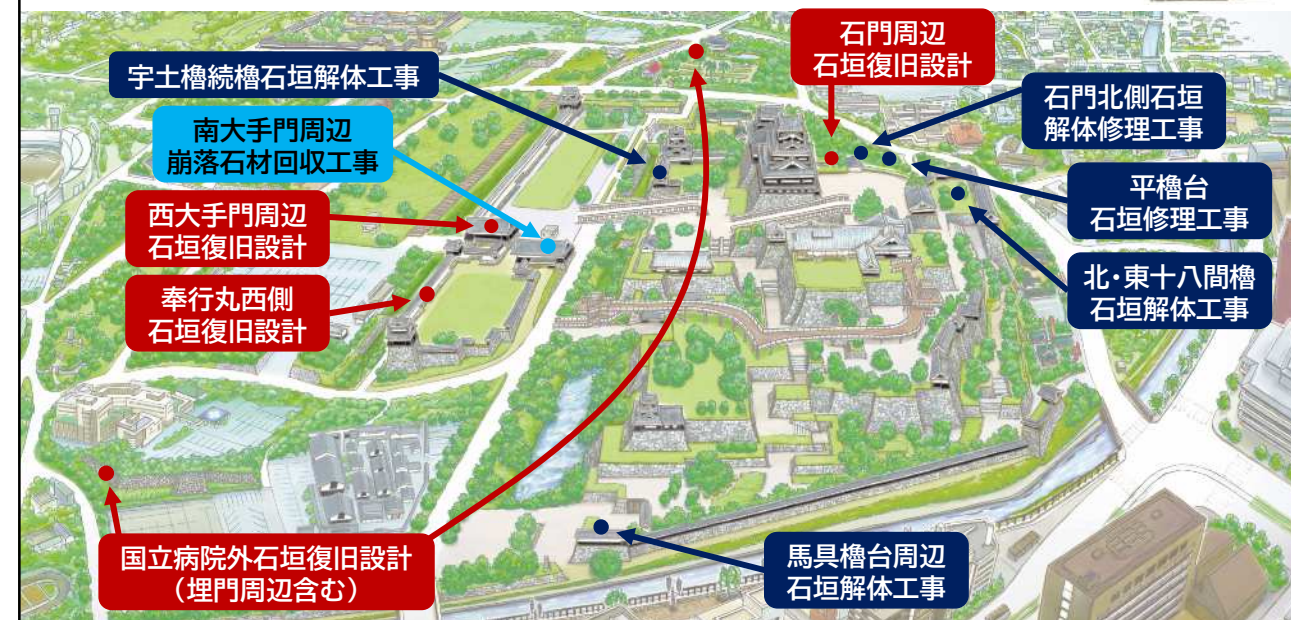
14

令和6年度 石垣復旧事業箇所

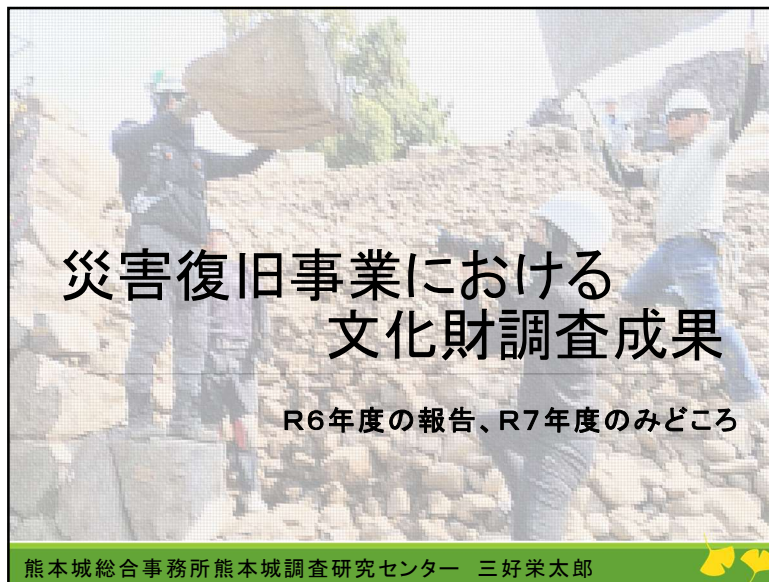


15

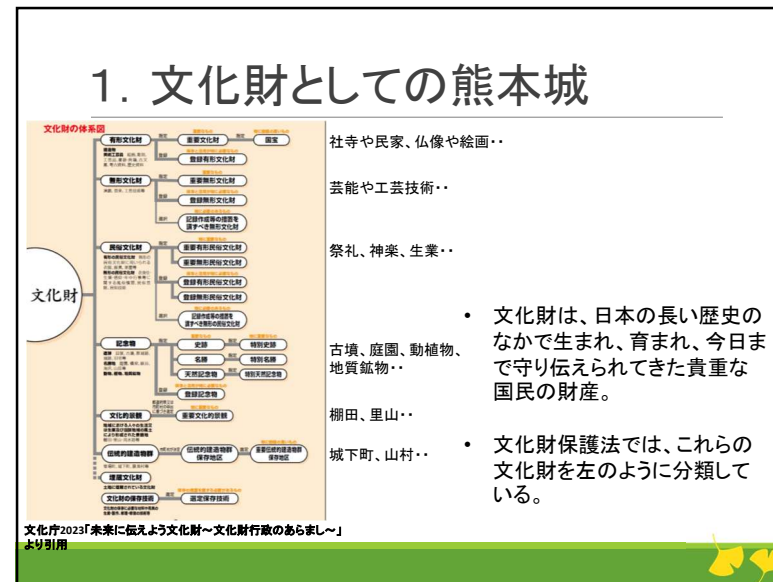
令和7年度 石垣復旧事業箇所



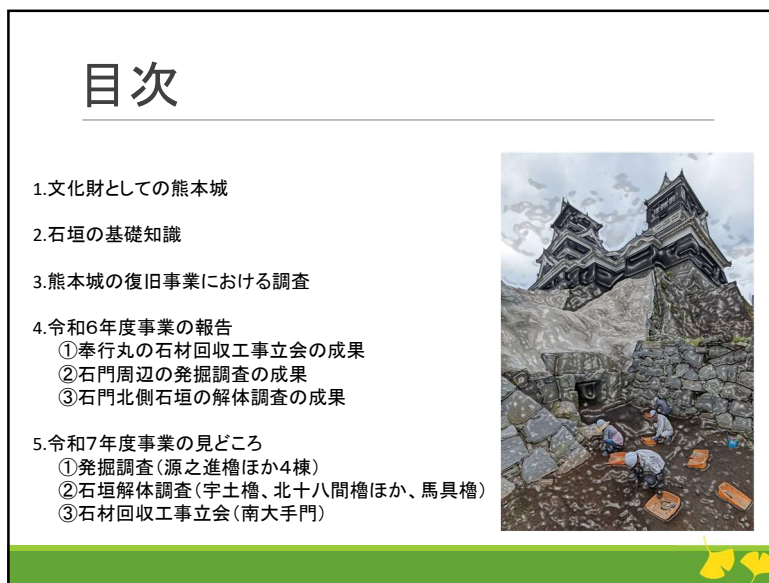
16



1



3



2

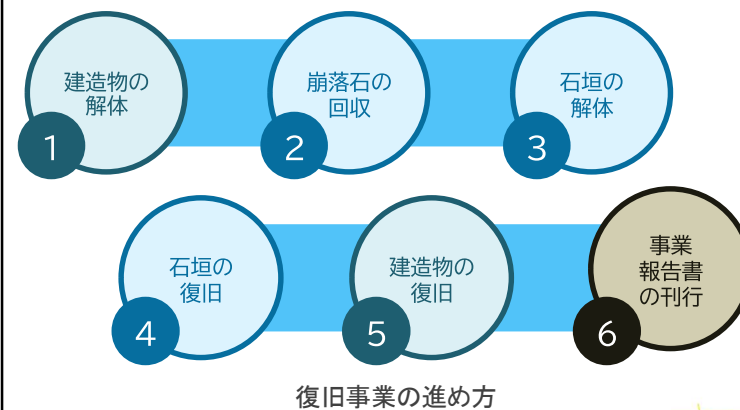


4



5

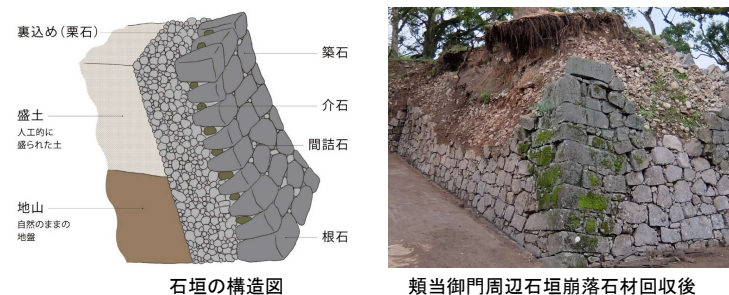
3. 熊本城の復旧事業における調査



7

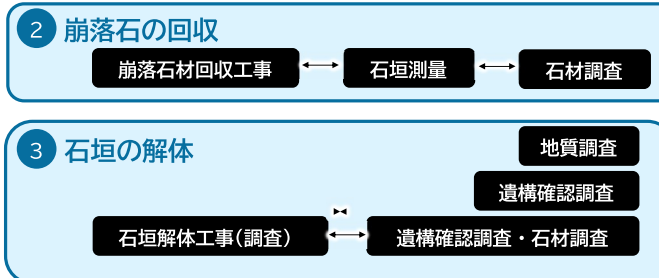
2. 石垣の基礎知識

- ・築石: 石垣の外を構成する石材
- ・裏込め(栗石): 築石の背面に小石を充填した層
- ・土(盛土または地山)



6

復旧事業における調査について



8

4. 令和6年度事業の報告

①奉行丸の石材回収工事立会の成果



9

- ・ H25、H29は3層に分けて、崩落した築石の回収を行った。
- ・ 1、2層目の築石は前方に滑り出るように崩落しており、3層目の築石は原位置を保ったまま前方に傾いている状態を確認した。

石垣の崩落パターン

地震の大きな揺れを受けて、石垣の真ん中から下が崩れて、続いて真ん中より上の石垣が築石の上にのったまま滑るように崩れている崩れ方が多い。
崩落石垣を横から見ると「く」の字状に崩れている。（下記参照）
これは石垣背後の築石が揺られて、下に沈むことで築石を押し出したためである。



3層目築石の検出状況(北から、H29)



- ・ 石垣崩落のメカニズム解明
- ・ 崩落時の危険範囲の確認
- ・ 積み直す際の石材対照資料

11



崩落石材回収の様子(南から)



崩落石材回収前(北から)

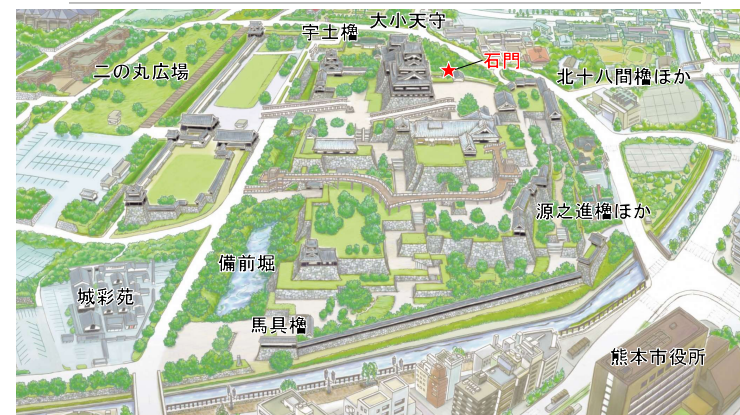


崩落石材回収後(北から)

- ・ 崩落した石材の調査(形状などから正面、天地を確認する。崩落前の写真と比較しどこに積まれていたのか確認する。)
- ・ 崩落した栗石や盛土の調査(中に含まれる遺物から修理履歴を把握する)
- ・ 崩落せずに残った石垣背面の調査(栗石層や盛土の特徴から修理履歴を把握する)

10

②石門周辺の発掘調査の成果



12



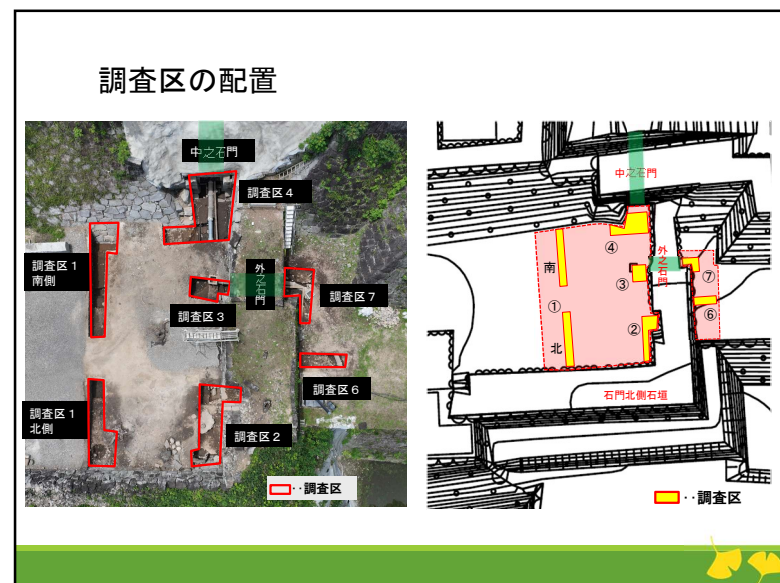
13



15



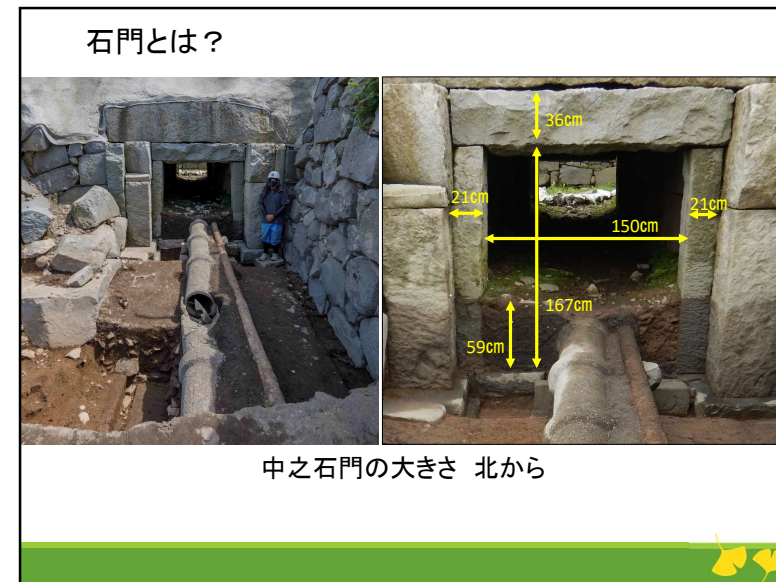
14



16



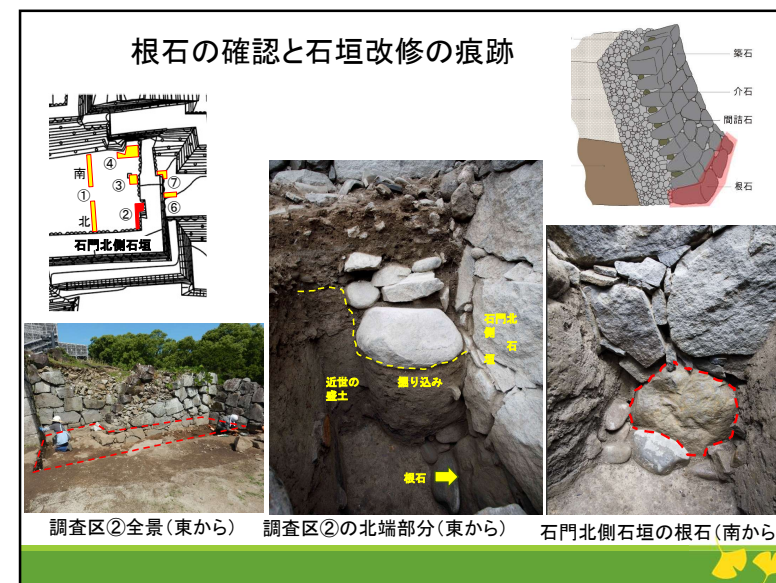
17



19



18



20

③石門北側石垣の石垣解体調査の成果



21

石門北側石垣の復旧事業の流れ



平成28年
(2016)
・熊本地震

令和4年
(2022)
・崩落石材回収
・測量業務委託

令和5年(2023)
・解体・修理方針決定
・解体・復旧設計

令和6年7月～
(2024.7～)
・解体・修理工事

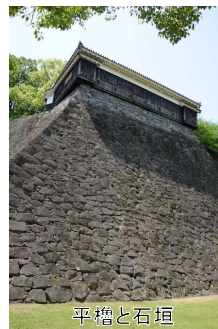
23

石門北側石垣

石門の北側、平櫓の西側につながるL字状の石垣



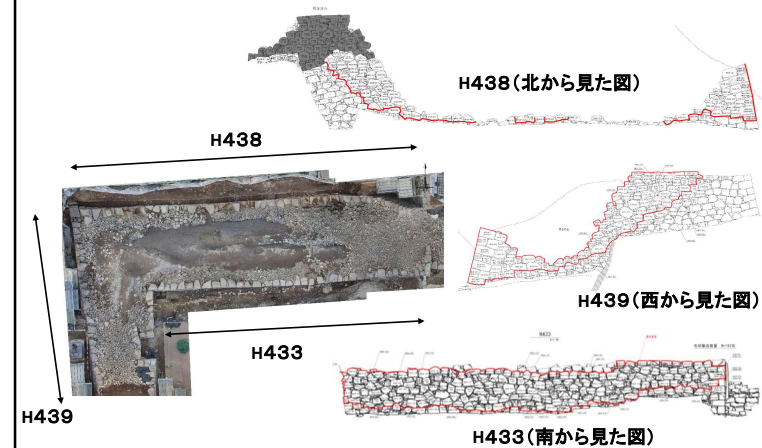
空から見た石門北側石垣の位置(東から)



平櫓と石垣

22

石門北側の主な解体範囲



24

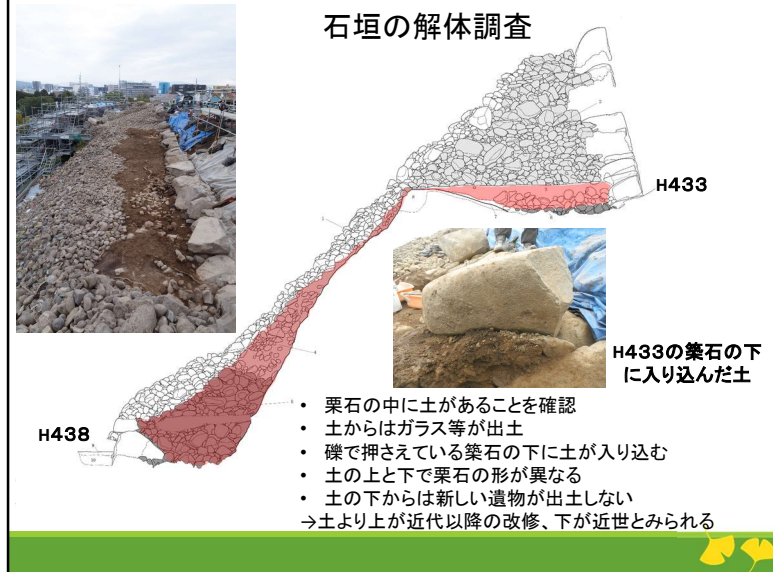
令和6年度末時点で解体まで完了



解体完了後の石門北側石垣(上が北)

25

石垣の解体調査



27

曲輪側の解体調査



前押さえの礫の検出状況(西から)

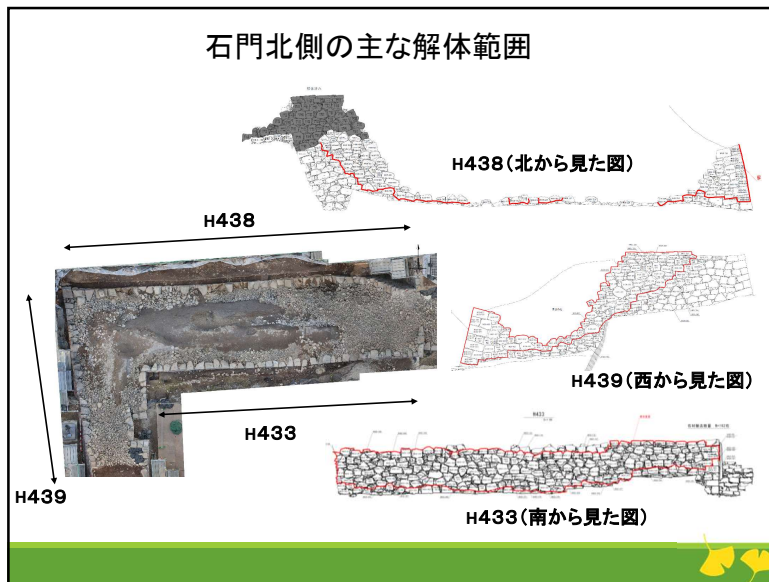
築石の積む位置のずれ(南東から)

- ・ 前押さえと考えられる礫が続くことを確認
 - ・ 礫で押さえている築石に、積む位置のずれがあることを確認
- 石垣の改修(積み直し)範囲を示している可能性が大

26



28



29



31

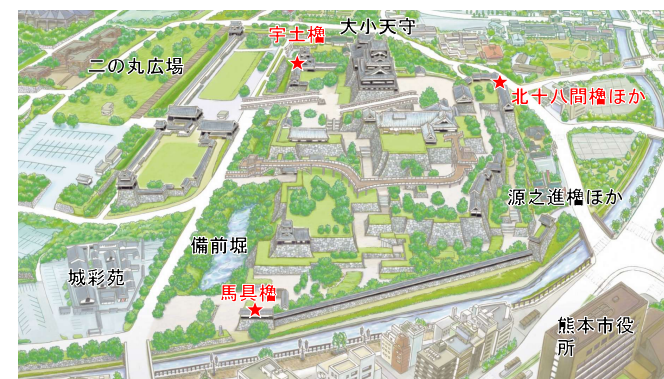
5. 令和7年度事業の見どころ

①発掘調査(源之進櫓ほか4棟)



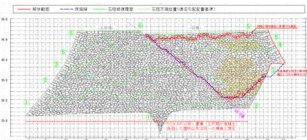
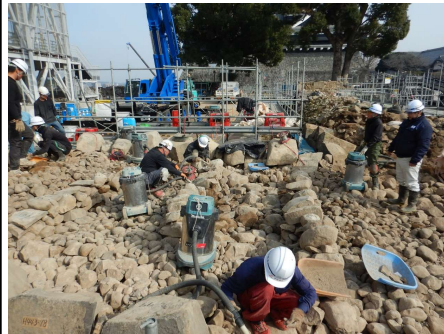
30

②石垣解体調査(宇土櫓、北十八間櫓外、馬具櫓)



32

宇土櫓の石垣解体調査



熊本城随一の高さを誇り、上には重要文化財が載る石垣の解体調査です。

33

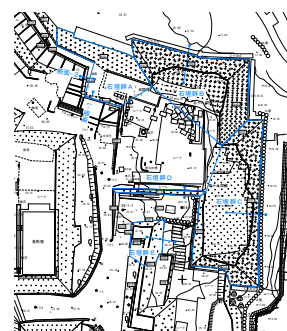
馬具櫓の石垣解体調査



行幸橋付近で来城者を迎えてくれる馬具櫓下石垣の解体です。上に載る馬具櫓は復元建造物です。

35

北十八間櫓ほかの石垣解体調査



東竹の丸の複雑な高石垣の解体調査です。上には重要文化財建物が載ります。

34



ご静聴ありがとうございました。

36